

もっと知りたい、健康のこと。

静岡赤十字病院広報誌

2022年・新春号

vol.361

|季|刊|発|行|

# 日赤NEWS

ほっとニュース

「褥瘡外来」を受診してみませんか

**【特集】**

正しく理解し、きちんと対処

## 急増する パーキンソン病

しぞおかクロス NAVI

外来患者アンケートの  
集計結果のご報告

information

一般社団法人日本損害保険協会の  
2021年度 交通災害等救急医療機器整備事業の  
寄付金により医療機器を整備しました

はたちの献血キャンペーン

注目の  
トピックス

今号のテーマ: パーキンソン病

# 正しく理解し、きちんと対処 急増する パーキンソン病

高齢化が進む日本国内で、近年急増しているパーキンソン病。根治の難しい難病ですが、適切な治療を行えば症状の進行を抑えながら生活することは十分可能です。詳しいお話を脳神経内科の芹澤医師より伺います。

教えて  
ドクター  
Q & A

脳神経内科 部長  
芹澤 正博 医師

沼津市出身。2002年より当院勤務。脳神経内科の道を選んだのは「全身を診られる内科の中でもとりわけ未知の部分が多く、さまざまな可能性を秘めた脳神経の分野に奥深さを感じた」のがきっかけだそう。

## Q パーキンソン病とはどんな病気?

A ひと言でいえば、原因不明の神経細胞の脱落による神経変性疾患の一種です。私たちの体は脳からの指令が筋肉に伝わって動いていますが、その動きを円滑にしているのが脳内にあるドパミンという神経伝達物質。このドパミンを作る神経細胞が徐々に壊れていくことでドパミンが不足し、さまざまな運動症状を起こすのがパーキンソン病です。国内患者数は10万人に150~200人ですが、60歳以上ではおよそ1,000人。高齢になるほど発症割合は増加します。

## Q どうして起こるの?

A ドパミン神経細胞の減少は、 $\alpha$ シヌクレインという異常なたんぱく質が脳内に蓄積することが原因と考えられています。 $\alpha$ シヌクレインの蓄積はパーキンソン病発症のかなり前から始まり、神経ネットワークを通じて中枢神経系へ拡がり、さまざまな症状の原因となることが推定されていますが、詳細はまだ十分解明されていません。

## Q どんな人がなりやすい?

A 性別や生活習慣には有意な傾向はなく、遺伝性も認められていません。発症は60~70代が多いのですが、脳の神経細胞の変性はその何年も前から始まっています。比較的ゆっくりと症状が進むために早期発見や予防が困難であるというのも治療の難しさのひとつ。また、40歳未満で発症する「若年性パーキンソン病」も稀に見られます。



## 高齢化社会の進行と共に患者数は増加の一途

パーキンソン病は、神経変性疾患の中ではアルツハイマー病に次いで患者数の多い疾患。最初に症状が報告されたのは1817年、発見者であるイギリス人のジェームス・パーキンソンの名前が病名の由来になっています。現在日本国内の患者数は15〜20万人と見られ、その数は年々増える一方(図1)。高齢化社会の進行と共にますますの増加が予想されます。

症状は、大きく運動症状と非運動症状にわけられます。運動症状は発症初期からみられる症状で、「無動」

図1) パーキンソン病/関連疾患の特定疾患治療研究事業における受給者の数

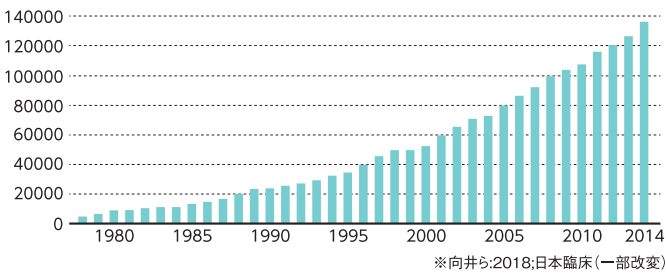
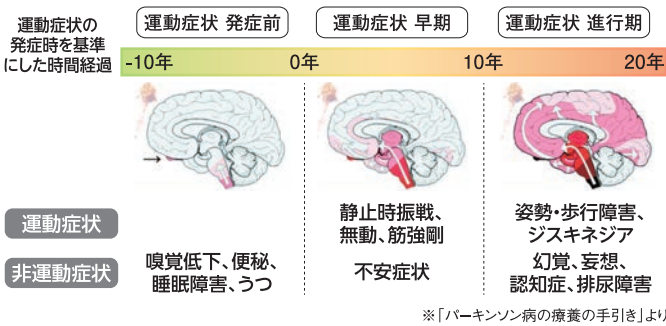


図2) パーキンソン病の主な運動症状



図3) パーキンソン病の経過



## 適切な治療が症状を軽減。前向きに取り組んで

治療には薬物治療、外科的治療、リハビリテーションがあります。現在中心となっているのは薬物治療。脳の中でドパミンに変換されてドパミン不足を補う「L-ドパ(レボドパ)」は代表的な抗パーキンソン病薬のひとつです。その他にも近年さまざまな薬物が開発され、めざましい成果を上げています。

また、リハビリテーションは早期から導入できる治療で、適度な運動の継続が症状の進行を抑制できることが明らかとなり、薬物治療同様に重要性が注目されています。外科的治療は、薬物治療で十分な効果が得られなくなった進行期の患者さんが対象。脳に電極を埋め込み微弱な刺激を与える方法、胃瘻を設けて持続的にドパミンを注入する方法などが開発されています。

根治困難なことから難病とされてきたパーキンソン病ですが、現在は症状に合わせた治療によって生活を長期間サポートできるようになっています。また臨床研究レベルではドパミン細胞を脳に移植する細胞移植治療や遺伝子治療など、新たな治療法の開発も進行中。患者さんやご家族には、ぜひ積極的に治療に取り組む、日々の生活を前向きに過ごしてほしいと願っています。

## 表紙を飾った静岡赤十字病院スタッフ

社会福祉士(左から) 鈴木大介さん 橋本尚子さん 丸山真弓さん  
望月美郷さん 長島昌彦さん 平田里美さん



突然の病気に襲われた時、人は心理的・社会的にさまざまな不安や課題を抱えるもの。医療ソーシャルワーカー(MSW)は、社会福祉の立場から、これらの課題解決をお手伝いする専門職です。「心がけていることは、皆様といっしょに目標に向かうこと」と話すのは、メンバーをまとめる橋本課長。撮影中も息ぴったり、抜群のチームワークに脱帽です。

## INFORMATION

### はたちの献血キャンペーン

1月1日~2月28日、  
400mL献血と成分献血にご協力ください

献血者が減少しがちな冬期において安定的に血液製剤を確保するため、成人式を迎える「はたち」の若者を中心として、多くの方に献血に関する理解と協力を求めています。皆さんの温かいご協力をお待ちしております。

県内の献血会場については、静岡県赤十字血液センターホームページをご覧ください。

<https://www.bs.jrc.or.jp/tkhr/shizuoka/>



治りにくいキズを治す

## 「褥瘡外来」を受診してみませんか

寝たきりの患者さんに多く見られる「褥瘡(じょくそう)」と呼ばれる皮膚の病変。一度発症すると治りにくいこの病気に対し、当院ではチームで統合的に治療する専門外来を開設しています。その意義と役割について、担当医である福井医師にお話を伺いました。



褥瘡とは、高齢の方や病気などで日々の活動性が落ちた方に起こりやすい皮膚の病気で、俗に「床ずれ」「寝だこ」などとも呼ばれます。長期間同じ体位で動かないでいるために体の同じ部分が圧迫され続け、やがてその部分の皮膚が傷んでキズになるといいます。好発部位は仙骨部(お尻)や踵部(かかと)などで、治療には主に外用薬が使われますが、重症化すると手術が必要なことも。

困ったことにこの褥瘡は一度発症すると慢性化しやすく、治りにくいことが多いのです。慢性化の原因としては「症状にあった薬の使用ができていない」「ベッドや車いす、福祉サービスなど、適切な療養環境が整っていない」などさまざまですが、気付いた時にはすでに入院治療が必要な状況ま

で褥瘡が悪化しているというケースもみられます。症状が進めばもとの病気の治療や介護の妨げになったり、感染症など合併症を引き起こすリスクもあり、困っているという患者さんやご家族の声は多く聞かれます。

当院ではこうしたお悩みを抱えている地域の皆様のお役に立つべく、2021年6月より「褥瘡外来」を開設。褥瘡に関わる問題を総合的に解決するための専門外来として、形成外科医や褥瘡に精通した看護師などがチーム体制で診療にあたっています。

症状にお困りの患者さんやご家族、特に「何ヶ月も治らない状況が続いている」「範囲が広く、毎日の処置が大変」という方がいらっしゃれば、ぜひ受診されることをお勧めします。

担当診療科：形成外科

担当医：形成外科副部長  
福井 剛志

診療時間：毎月 第2・第4 火曜

※紹介予約のみ。当院所定の事前調査票とかかりつけ医の紹介状が必要です。ご希望の方は当院 地域医療連携課へご連絡下さい。



## INFORMATION

インフォメーション

一般社団法人日本損害保険協会の  
2021年度 交通災害等救急医療機器整備事業  
の寄付金により医療機器を整備しました

当院は、地域の中核病院として災害拠点病院や救命救急センターなどの指定を受け、24時間体制で救急患者の受け入れを行っています。

このたび、一般社団法人日本損害保険協会寄付金による2021年度交通災害等救急医療機器整備事業により超音波画像診断装置2台を6月末に導入、それぞれを救命救急センターと救急病棟に配置。また血液ガス分析システムを7月末に救命救急センターに導入いたしました。

本機器の導入により、交通事故等をはじめとする救急医療体制のよりいっそうの強化を図り、救急患者の救命率向上に資するよう努めてまいります。

日本災害保険協会をはじめとする関係者の皆様に御礼申し上げます。



暮らしに役立つ情報をおとどけ

## しずおかクロスNAVI

いっそう信頼される病院を目指します

### 外来患者アンケートの集計結果のご報告

このたび、当院では、医療サービスの向上を目的とし、患者の皆様を対象にアンケート調査を実施いたしました。多くの患者の皆様のご協力を得て、貴重なご意見、ご要望をいただくことができました。誠にありがとうございます。簡単ではございますが、ここにアンケート調査結果の一部をご報告いたします。

またこのほか、自由記載欄ではあたたかいお言葉をたくさんいただき、とても励みになりました。さまざまなご指摘・ご意見は真摯に受け止め、改善に向けて努力してまいります。

今後も患者の皆さまから信頼される病院、社会に貢献できる病院を目指してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

#### ●職員の対応について

(満足5点、やや満足4点、どちらともいえない3点、やや不満2点、不満1点とし平均点を算出)

各科受付事務員の対応は **4.36**

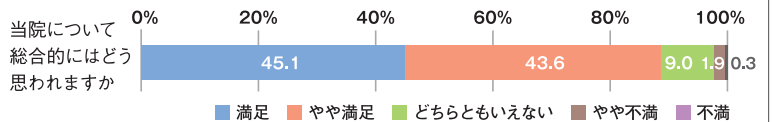
看護師・看護助手(医師の診療補助者)の対応は **4.54**

放射線技師の 対応は **4.49**

臨床検査技師(採血・心電図など)の対応は **4.45**

会計窓口の 対応は **4.21**

#### ●その他全体的なことについて



調査日:令和3年10月25日(月)・10月26日(火) 調査対象:当日来院外来患者 有効回答数:616枚